第３回若年層の投票率向上推進計画策定ワーキンググループ議事録要旨

○　日　時　　令和４（2022）年５月 31 日（火）15:00～17:00
○　場　所　　栃木県庁本館９階会議室２　ほか（オンライン会議形式）
○　出席者
　［委員］
　　・若者（当事者）
　　落合美帆委員、塙蒼空委員、濱野将行委員、渡邊幸樹委員
　　・支援者
　　青﨑智行委員、大根田清次委員（途中退席）、加納麻紀子委員、長裕之委員、名村史絵委員
　［県選挙管理委員会］
　　菅俣宗良書記長、朝倉雄一書記長代理、大根田起司選挙係長　ほか

１　書記長挨拶

これまでの２回のワーキンググループでは、なぜ若者の投票率が低いのか、投票率を上げるにはどうしたらいいのかといったテーマで委員の皆様から御意見、御感想をいただいたところである。

第３回となる本日は、計画策定のスケジュール、本年度実施予定の選挙啓発活動などについて御説明させていただいたのち、これまで委員の皆様から頂戴した御意見を整理し、作成した計画の骨子案についてお示しさせていただくので、忌憚のない御意見を頂戴したいと思っている。

近く執行される参議院議員通常選挙、そして来年度当初に予定されている県議会議員選挙を見据え、選挙啓発については、これまで御提案いただいたものの中でできるものから着手していきながら、年度内の計画策定に向けて取り組んで参りたいと考えているので、引き続き皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げる。

２　議題

事務局から資料に基づき、「若年層の投票率向上推進計画策定スケジュールについて」、「令和３年度選挙啓発事業の実績について」、「令和４年度選挙啓発事業について」及び「若年層の投票率向上推進計画骨子案について」説明後、若年層の投票率向上施策や計画の骨子について意見交換を行った。

－委員意見要旨－

○委員

骨子案について、数値目標の設定が難しいことは理解できる一方で、数値目標は大切であると考える。投票率の目標は立てられないと思うが、投票できない理由を削減する目標であれば立てられるのではないか。

例えば、学生や社会人１年目の人の中で、住民票が現住所にないことを理由に投票できない人の数を減らすとか、選挙にあまり関心がないことを理由に投票に行かない若者の

割合を下げるなど、理由の部分に着目すれば、目標値が設定できるのかもしれない。
　また、数値目標の立て方として、「栃木県の投票率を日本一にする」など、他県と比べた相対的な評価も、成果を判断する材料になるとともに、県のＰＲにも繋がると思う。

→委員
　数値目標の設定は、尺度としてわかりやすい側面がある一方で、数字を追いかけることによって本末転倒な動きになってしまう難しさ、危うさもあり、その点に注意しながら慎重に目標値を設定することが重要であることを申し添える。

〇委員
　啓発動画について、同世代の若い人たちが応援しているから自分も一緒になって応援しようと思えるようなタレントを起用するなど、若者をターゲットにしたキャスティングが投票にも繋がっていきやすいのではないか。

　また、メッセージカードのデザインを含め、そもそも選管内部での若い人の意見を反映して事業を進めるということが根本として重要であると思う。

〇委員
　ワーキンググループを開催したことにより、何が変わったかという視点に立つと、何かしら具体的な成果指標が計画の中に入るとよいと思う。

　スポーツイベント会場における啓発について、栃木のスポーツはここ数年で応援する人が増えるなど、状況が良い方向に変わってきているところもあるため、そこと絡めた施策はとても意味のあるものであると感じた。

　メッセージカードについて、65 万円の予算を投じて作るのであれば、例えば若いデザイナーにお願いするだけでも印象は大きく変わると思うし、色々な人の意見を取り入れるなど、工夫の余地があるのではないか。

→委員
　惹きつけが大事であるということが、計画の三本柱のひとつになっている中で、フォントや体裁など全体的なデザインにインパクトを持たせ、人の関心を向けさせるようなところの工夫は決して悪い話ではないと思う。
　例えば、若者委員の皆様にラフ案だけでも見せて意見交換した上で企画を進めていくことが可能であれば、多様な人を巻き込んでいく、惹きつけていくといった計画の考え方にも合致すると考えられるので、今後の参考にしてもらいたい。

→事務局
　今回のメッセージカードの作成に当たっては、対象が親子向けであるため、情報を詰め込みすぎず、文字を少なく、大きめにというコンセプトで作成したが、次回作成する際に

は、頂戴した御意見を念頭に置きながら臨んで参りたい。

〇委員
　メッセージカードについては、山形県の学校向け選挙啓発パンフレットが各年代層に合わせてパンフレットの形状を変えていて、見やすくわかりやすいものだったので、前例としてある物を参考にすることも良いと思う。

　臨時啓発事業実施計画に関して、最近だとコロナの状況も少しずつ落ち着いてきて、外出する人が増えてきたと思う。オンラインのイベントだと情報を知っている人しか参加できないので、興味関心がない人に対しては、公共の場で若者向けのイベントを実施して情報接触してもらうことが適しているのではないか。

〇委員
　学校で探求的な学習を行うときに、生徒たちにどのような課題を持たせ、調べさせるかというテーマ設定は、その学習の成功のための重要な鍵になっており、うまくいっている学校は、自分たちの日常をより良くするという視点を持って、どのような課題があるかというところにかなり迫ったテーマ設定をしているところが多い。
　具体的には、例えば、より良い学校生活を送るために、自分たちの制服をどうするかについて考えさせたり、学校に第３の居場所としてみんなでおしゃべりができるようなカフェをつくることを、探求的なテーマとして考えさせて実現させたりした事例もあり、身近なところに目をつけさせることによって、子どもたちは積極的かつ主体的に取り組んでいく。
　政治も同じで、自分たちの身近なことをより良くするためにどうしたらいいかという部分に着目させ、実際に実現したものが出てくると、関心が高まり、投票にも繋がるのではないか。

〇委員
　選挙啓発において、例えば若い世代のデザイナーに協力してもらうなど、人の心に訴え、行動を変えるためのマクロの取組のほかに、一つひとつの投票所でどのような工夫をするかというミクロの取組をすることも面白いと思う。
　私がいる「くまの木」も選挙の投票所になっているので、ここで何かできることがあるか考えたが、ここの地区には若い層がほとんどいない。若い人が集まるような投票所に的を絞って、実験的なことを行ってみても面白いのではないか。

　若年層の投票率向上推進プランについて、プランの中で決めたことだけをやっていくというよりは、みんなで作り続ける、工夫をし続ける、アイデアをもらい続けるという余地を残しながら、形にしていくとよいと思う。

→委員
　ＮＰＯの活動の中で、行動変容を促すための取組や、工夫している点などはあるか。

→委員
　社会的なことに限らず、意識を高めるためには、やはり直接体験が一番効くと感じている。
　特に今私が携わっている農村地域の環境保全の分野では、生き物が生息する環境を取り戻していこうという取組の中で、直接見たり、触れたり、それを色々な世代と一緒にやったりしてもらうことによって、地域を動かすというような事例は多く見ているので、何か直接体験をしたり、人と関わったりすることがとても大きいと感じる。

〇委員
　選挙に行って自分の意見を反映する必要があると感じていながら事情があって選挙に行けない人よりも、そもそも選挙に関心のない人の方が、投票に行ってもらうことを促すことは難しく、何か衝撃のある内容で伝えないと変わらないのではないかと感じた。

　若い人の斬新な意見は有意義であるが、まだまだ世の中には若い人の意見を尊重する場が足りていない。若い人たちが主体となって話し合い、決められる場を作っていかなければいけないのかもしれない。

　また、将来を見据え、小中学生といったより若い世代への選挙啓発活動を授業の一環として実践することも、これから必要になってくると思う。

→委員
　より若い世代への啓発活動については、計画の柱のひとつである「未来の有権者を育む」という趣旨にも合致すると思うので、検討を図ってもらいたい。

３　その他
　次回開催予定時期　令和４（2022）年９月